

第6回札幌市災害時物資供給検討会 議事概要

1 日時

令和7年2月25日(火) 15時00分～17時00分

2 会場

TKP札幌カンファレンスセンター北3条 ホール6A

3 出席団体

【学識経験者】

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

【小売】

イオン北海道株式会社／NPO法人コメリ災害対策センター／株式会社セコマ／
株式会社ラルズ／株式会社ローソン

※株式会社サッポロドラッグストア／株式会社セブン-イレブン・ジャパンは欠席

【輸送】

一般社団法人 AZ-COM 丸和・支援ネットワーク／佐川急便株式会社／日本通運株式
会社／北海道福山通運株式会社

※一般社団法人札幌地区トラック協会／ヤマト運輸株式会社は欠席

【倉庫】

※札幌倉庫協会は欠席

【行政機関】

北海道運輸局／北海道開発局／札幌市

※北海道は欠席

4 議事

(1) 札幌市災害時物資供給マニュアル素案について

ア 札幌市災害時物資供給マニュアル全体版

イ 札幌市物資集積拠点運営マニュアル素案

大和ハウス プレミストドーム編

札幌市スポーツ交流施設 コミュニティドーム(つどーむ)編

5 主な意見

【札幌市災害時物資供給マニュアル素案について】

〔札幌市の体制について〕

○市災害対策本部の体制図を作成する予定はあるか。連絡先や人数、体制等、マニュアルとリンクする体制図があった方がイメージしやすい。

○札幌市は事業者への指示役等になるかと思うが、指示するスタッフや人員構成を今後

オープンにしてほしい。担当者が人事異動すると、また初めからになるため、考え方を教えていただきたい。

○このマニュアルで整理した要素を他自治体でも活用できると思う。

➤ 全体像を見えやすくするため、市の体制等をマニュアルに記載する。

〔物資発注の流れについて〕

○物資の問合せから発注までの時間軸が見えない。問合せから発注までの時間が長くなると、市で各企業からの問合せ対応が必要になるため、目安を決めたほうがよい。

○避難所で欲しいものは店舗でも欲しいものになる。動かさずに押さえておくのは難しく、伝えた状況が3～5時間経つと、変わらざるを得ない状況になる。

○在宅避難者向けに店舗で出すということも非常に重要になってくるので、事情を理解した上で運用していくことになる。

○お客様の希望があれば、店舗で商品を出すことが最優先になる。混乱している災害時は、関わる人全員に伝えるのは難しいため、物資確保の約束ができるかどうかは微妙。受注したものを出すタイミングは、可能な限り早い方が希望どおりに届けられる。

○恐らく発災直後と発災後約1か月経過時では状況が変わってくる。発災直後は商品の取り合いの状況になり、その場で調達しないとほぼ調達できないという状況。発災直後に購入せずに数だけを問われると、回答できないと思う。一方で、発災から約1か月経って、計画的に被災地に届けたい物資がある場合等であれば、様式を有効活用できると思う。発災直後と、例えば発災後2週間以降といったところでの運用を検討いただければと思う。

➤ 発災から時間が経過した段階では、定期的な問合せ、発注のスケジュール設定ができるよう今後検討する。

〔連絡方法について〕

○様式のやりとりは、インフラの状況にもよると思うが、ファクスなのかメールなのか。本社から物流センター等に確認する作業が必要なので、メールでのやりとりが非常に効率良い。

○災害で通信が途切れた場合に、会話だけではなく、受注のやりとりについても何かのツールの応用で使えるものはないだろうか。

○様式は、どのようなデータで共有されるのか。例えばPDFに手書きしたものが送られてくるのか。ExcelやWordにデータが入力されて送ってくるのか。手書きでは手間暇がかかるのと、ファクスで転送を重ねていくと、記載内容が見えなくなってくる。

○様式の送り先のメールアドレスやファクス番号を入れた方が、作業はやりやすい。

➤ 加工できるデータでの提供を検討する。